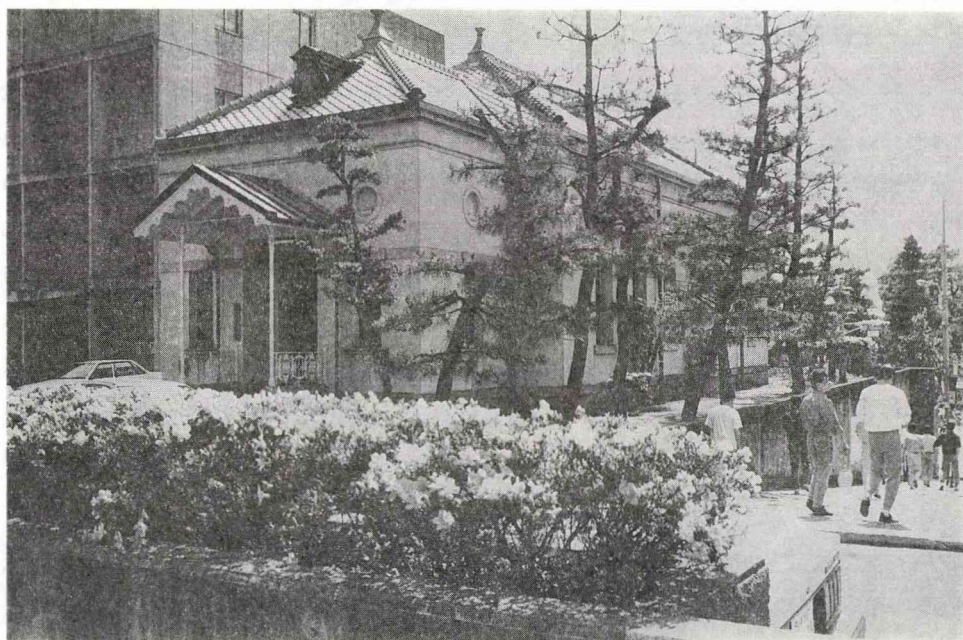


# 京大広報

No. 373

京都大学広報委員会



改修された尊攘堂 ー関連記事本文745ページー

## 目 次

名誉教授称号授与式.....	744	平成元年度創立記念行事 学術講演会の開催.....	746
部局長の交替等.....	744	<随想> たねなしぶどう 名誉教授 奥田 光郎.....	747
外国人留学生歓迎パーティ.....	744	日誌.....	748
<紹介> 埋蔵文化財研究センター.....	745		

## 〈大学の動き〉

## 名誉教授称号授与式

5月30日(火)午前10時30分から、総長室において教育学部長出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、蜂屋 慶元教授(教育学部)に称号が授与された。

## 部局長の交替等

## ヘリオトロン核融合研究センター長

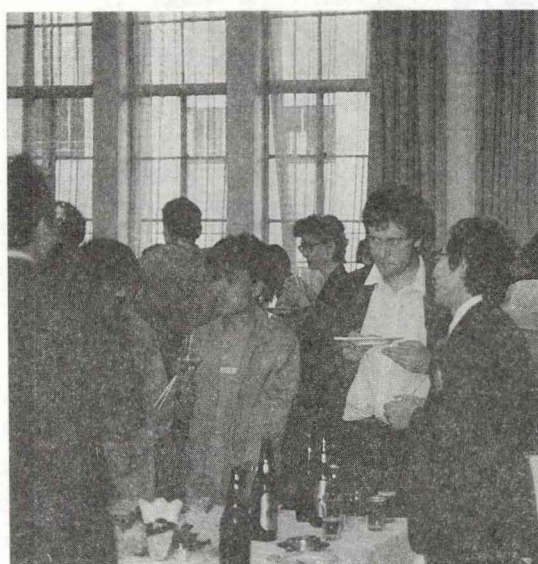
飯吉厚夫ヘリオトロン核融合研究センター長の核融合科学研究所長就任に伴い、後任として大引得弘ヘリオトロン核融合研究センター教授(超高温プラズマ制御研究部門)が5月29日任命された。任期は平成3年5月28日までである。

## 外国人留学生歓迎パーティ

本年4月に入学した留学生の歓迎パーティが、5月26日(金)午後6時から、楽友会館において開催された。

歓迎パーティは新入学の外国人留学生、総長、関係部局長及び指導教官等約150名が出席して行われた。佐野哲郎学生部長の挨拶に続いて、新田博衛教養部長の発声による乾杯でパーティが始まり、終始なごやかな雰囲気のうちに進められ、午後8時頃閉会した。

なお、新入学した外国人留学生の概況は、次のとおりである。また、外国人留学生の総数は、714名である(元.5.1現在)。



国名等	学部	大学院		研修員 研究生	計
		修士 課程	博士後 期課程		
アルゼンチン			1		1
オーストラリア				2	2
バングラデシュ				2	2
ブラジル				1	1
ビルマ			1	1	2
中国	3	2	8	22	35
西ドイツ				17	17
香港			1	1	2
インド			1	1	2
インドネシア	1	1	1		3
イタリア				1	1
韓国		1		11	12
マレーシア	2				2
パキスタン	1				1
フィリピン	2		1		3
ペルー			1		1
シンガポール	1				1
スリランカ			1		1
タンザニア		1			1
タイ	1		3		4
台湾	2			7	9
米国				6	6
ソ連				1	1
ベトナム		1		1	2
計	13	6	19	74	112

(注) 国名等は通称による。

(学生部)

## 〈紹介〉

## 埋蔵文化財研究センター

京都大学構内の埋蔵文化財の調査は、昭和47年以来文学部考古学教室、埋蔵文化財調査室を経て、現在京都大学構内遺跡調査会によっておこなわれているが、昭和52年に埋蔵文化財研究センターが学内措置として設置され、発掘調査の指導、出土資料の研究と保存、調査成果の公刊などに当たっている。この間、吉田キャンパスを中心として、理学部附属瀬戸臨海実験所、農学部附属牧場などの調査をも実施し、縄文時代から江戸時代にいたる貴重な埋蔵文化財を収集し、その研究をすすめている。

このたび本部構内の尊攘堂を当センター資料室として利用させていただくことになり、多数の資料を保管すると同時に展示をして、学内、学外の方々が観覧できる場を設けることができるようになった。その開設を記念して5月31日午前10時から、埋蔵文化財の調査及び尊攘堂改修工事等にご協力をいただいた学内関係者を招いて展示会を開催した。西川幸治センター長の挨拶と展示資料の案内ののち、西島安則総長の祝辞があり、会を終了した。

資料室となった尊攘堂は、本部構内西門の南側にある。品川弥二郎によって保管されていた吉田松陰の遺墨類を、京都帝国大学が管理することとなったのを機に、明治36年に新築した建物である。尊攘堂建設にいたった経緯や建築様式については、「京大広報」№112と『京都大学建築八十年の歩み』に詳しく紹介されている。今回の改修は、資料室としての活動に必要な照明や給排水施設を新たに設けたものの、歴史的建物としての価値を損なわぬよう、外装及び天井の円形浮き彫り装飾や鉄製シャンデリアなど、建物全体の外観や装飾などは従前のまま残して、破損部の修理と補強にとどめている(写真1)。建物の歴史的要素の保存と、機能的な活用のための設備工事との調整にあたっては、施設部各課担当者の大変なご努力があった。

資料室のうち主室の広間は、過去十数年間にわたる調査の出土品の主なものの展示に、また4つの小室は、関連資料の保管や写真用暗室などに利

用できるようになっている。展示資料には、北部構内で発見された縄文時代の甕棺墓かめかんぼに用いられた土器、和歌山県の理学部附属瀬戸臨海実験所構内で出土した、古墳時代から奈良時代の塩作りに使った土器(写真2)、あるいは病院構内で出土した江戸時代の歌人大田垣蓮月の手になる陶器類などがある。

また同時に、調査にあたって関連諸分野の協力を求めておこなった、出土木材の樹種同定や地磁気による年代測定の紹介のほか、コンピュータによる調査データの解析、土器の作られた場所を同定する材質分析、重要遺構の保存修景方法やその実施例など、当センターで開発、研究をおこなっている内容を紹介するコーナーも設けている。

展示品にはできるだけ多くの解説や関連資料の写真なども付して、資料室を専門の人だけでなく、学生や市民にも公開することを考えており、



写真1 改修された尊攘堂内部と展示品

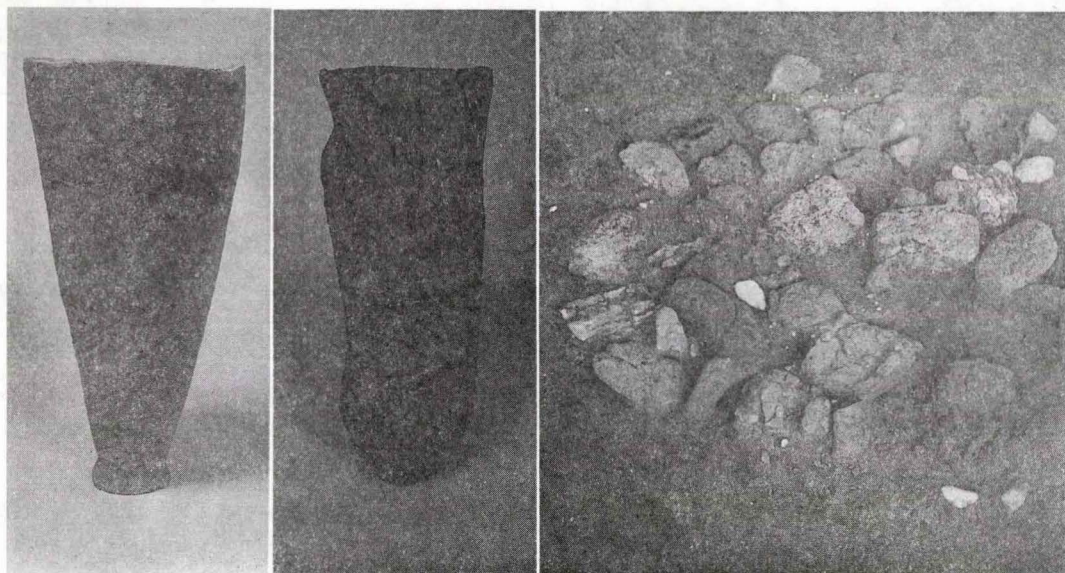


写真2 理学部附属瀬戸臨海実験所構内出土の製塩土器(1/5)とその炉跡

その期間や方法について検討中である。尊攘堂を文化財の資料室として利用することは、歴史的建物として単に修理保存するだけでなく、その歴史的価値を生かしながら、新たな機能を発揮させる

ためのひとつのモデルともなるであろう。今後さらに有効な活用をめざして努力を重ねるつもりである。

(埋蔵文化財研究センター)

### 平成元年度創立記念行事 学術講演会の開催

平成元年度春季学術講演会を下記のとおり開催いたします。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

日 時 平成元年6月29日(木) 午後3時から  
場 所 京大会館101号室  
講 師 作田 啓一(本学名誉教授)  
演 題 学生文化の変遷  
講師略歴

1943年関西学院大学商経学部卒業。1948年京都大学文学部卒業。1953年西京大学(現京都府立大学)助教授を経て、1959年京都大学教養部助教授。1966年同教授。1977~1978年同教養部長。1985年退官。現在、甲南女子大学教授。

同氏は、永年に亙り学生、大学院生の指導及び研究者育成に尽力される一方、社会学とりわけ理論社会学の領域に著しい業績を挙げられている。著書『価値の社会学』は価値の

概念を中心にすえて従来の社会的行為論を修正・発展させたものであり、また文化的価値と現実とのかかわりあいを分析した著書『恥の文化再考』『深層社会の点描』は、日本社会の特質を明らかにして、比較社会学的研究の方法を広め、いずれも以後多数の研究者の拠りどころとなっている。また社会思想史、文化史上の問題を社会学の立場から解釈するなど、学際的な面でも高く評価され、日本における社会学の進展に多大の貢献をされている。

学外にあっては、日本社会学会理事、関西社会学会委員を勤められる傍ら、フランス国との学術交流にも尽くされ、1984年フランス共和国政府より教育功勞勲章を授与されている。(学生部)



## 日 誌

(1989年5月1日～5月31日)

- |      |  |     |              |
|------|--|-----|--------------|
| 5月9日 | 大学院審議会   | 16日 | 評議会          |
| 10日  | 名誉博士称号贈呈式                                      | 26日 | 防火委員会        |
| 〃    | 京都大学春秋講義 水曜講義 第1日 (以後の日程は、24日、6月7日、21日、7月5日)   | 〃   | 環境保全委員会      |
| 12日  | 放射性同位元素等管理委員会                                  | 〃   | 外国人留学生歓迎パーティ |
| 14日  | 経済学部創立70周年記念式典                                 | 29日 | 学位授与式        |
| 15日  | 発明審議委員会  | 30日 | 名誉教授称号授与式    |
| 〃    | 京都大学春秋講義 月曜講義 第1日 (以後の日程は、29日、6月12日、26日、7月10日) | 〃   | 評議会          |
|      |  | 〃   | 大学院審議会       |

